

夏季特別陳列

橋本左内と弟綱常

●会場 1階松平家史料展示室

●会期 平成20年7月9日(水)～9月7日(日)

休館日 8月1日(金)

橋本左内(1834～1859)は、福井が生んだ幕末の偉大なる政治思想家です。福井藩の外科医橋本長綱の長男として福井城下の常盤町(現在の福井市春山2丁目)に生まれました。幼少より学問を好んで俊秀の誉れ高く、数え年15歳にして『啓発録』を著し、自らの人生・学問の目標や考え方をしっかりとまとめています。福井の吉田東篁らに儒学を、大坂(阪)の緒方洪庵に蘭学を学びましたが、父の死によって家督を継ぎ医師となりました。しかし、藩の破格的な人材登用により書院番(藩主側近の秘書)に抜擢され、安政4年(1857)正月には、24歳という若さで藩校明道館学監同様心得となって藩の教育刷新に尽力し、更に同年8月20日には侍読(藩主に学問を教授する者)兼御内用掛(藩主近習の秘書)を命じられ藩政の中核を担いました。

当時藩主松平春嶽は、幕政の二つの重要案件に携わっていました。まず、将軍継嗣問題、いま一つは、無勅許条約締結に関する外交問題でありました。左内は春嶽の懐刀として「日露同盟論」の書翰にみられるような世界的な視野に立った外交論で幕府の独断を牽制し、また次期将軍に英明の誉れ高い徳川慶喜を擁立することを朝廷・幕府その他雄藩の有志らに説きました。しかし、反対派の大老井伊直弼の強行によって徳川慶福(家茂)が将軍継嗣に決定し、春嶽は隠居急度慎に処せられるなど、井伊に反対する諸侯たちは厳罰に処せられました。やがて左内にも捜査の手がのびました。安政5年(1858)10月23日より藩邸内で謹慎・幽閉された左内は翌年正月より五回にわたる取調べを評定所で受けたのち安政6年10月2日に入獄を命じられ、ついに10月7日江戸伝馬町の獄舎刑場で斬首されました。

橋本家には弟綱維と綱常があり、左内の没後、ともに医師になりました。綱維は明治11年大阪鎮台病院院長となりましたが同年に38歳で病死し、綱常も大阪鎮台病院長、陸軍軍医監、東京帝国大学医科大学教授、軍医総監を歴任し日本赤十字社の設立に尽力、明治19年には初代同病院長となり同42年65歳でこの世を去りました。今回の展示では、左内の短くも重厚な生涯を振り返り、またこれまであまり紹介されなかった弟綱常の生涯を未公開の資料もご覧いただきながら、幕末明治期に時代を導いた橋本兄弟についての理解と関心を深めて頂ければ幸いです。



5. 島田墨仙筆「橋本左内勉学の図」

一 橋本左内と『啓発録』

『啓発録』は、橋本左内が15歳の時に自己の規範として記したもので、左内の一生は本書を出発点としています。この『啓発録』が著された学問的背景には夥しい彼の読書量と恩師吉田東篁や学友矢島立軒といった優れた師友との出会いがあります。また、これまで公開することが少なかった旧御物の宮内庁蔵『啓発録』の左内自筆原本もお国帰りをし、福井の当館で展示することができました。

二 橋本左内の生涯と弟綱常

左内の生涯を少年時・大阪遊学時代・藩医時代・明道館時代・国事奔走時代・幽囚時代および最期それぞれの時期を象徴する史料を厳選して展示しました。

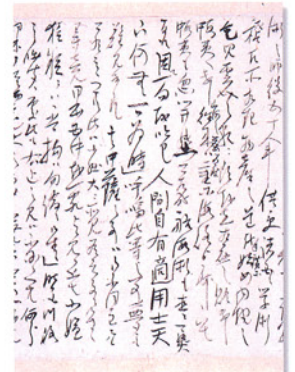
また、左内没後、弟綱常による左内の慰霊・顕彰に関する史料を通して弟から見た左内の姿も紹介しています。

30. 橋本綱常肖像写真



三 医師としての橋本綱常

橋本綱常は明治時代を代表する医師として知られ、日本の医療制度確立に尽くしました。特に日本赤十字社の設立に当たっては初代病院長となっています。こうした医師としての綱常ゆかりの史料をとおして、その活躍と業績の一端を紹介しています。



20. 「日露同盟論」部分

列品目録 (展示室のキャプションと表記が異なる場合がありますが、同一資料です。)

No.	列品名	員数	材質	時代	所蔵者
一. 橋本左内と『啓発録』					
※○1	島田墨仙筆「橋本左内」画像	1幅	絹本着色	大正3年7月以降カ	東京藝術大学
2	島田墨仙筆橋本左内肖像画(複製)	1幅	紙本	昭和時代	当館
3	橋本左内所用 桐製書見台	1基(台)	桐木製	江戸時代	春文
4	橋本左内所用 大硯	1面	石製	江戸時代	春文
◎5	島田墨仙筆「橋本左内勉学の図」	1枚	紙本版画	近代	当館
◎6	吉田東策筆「漂水寒生月」云々の書幅	1幅	紙本墨書	幕末～明治	当館
7	矢島立軒手沢本『周易本義通釈』	7冊			当館
8	橋本左内手沢本『 ^{ちのつほ} 智囊補』	12冊	木版本		当館
※○9	橋本左内著『啓発録』原本	1幅	紙本墨書	嘉永元年(1848)	宮内庁三の丸尚蔵館
二. 橋本左内の生涯と弟綱常					
10	川端哲雄筆橋本左内肖像画	1面	油彩・キャンバス	昭和時代	当館
11	橋本左内肖像画并小伝	1幅	紙本墨書	明治8年	春文
12	吉田東策筆「送橋本弘道遊浪華序」	1巻(通)	紙本墨書	嘉永2年(1849)冬	春文
13	岳飛筆「至宝」石摺の扁額	1面			春文
14	橋本左内書翰岡田準介宛	1幅(通)		嘉永4年(1851)5月18日付	当館
15	橋本長綱先生履歴并墓表	1冊	冊子本		春文
16	橋本左内書翰太田良策ほか宛	1通	折本仕立	嘉永5年間2月15日付	春文
17	橋本左内筆「明道館諸役輩名簿」「館務私記」	各1冊	横帖	安政3・4年	春文
18	橋本左内筆「洋書習学所設立に関する布令草稿」	1冊	冊子本(「自筆記帖」より)	安政4年(1857)4月頃	春文
19	橋本景岳(左内)筆「暗鳴則山岳崩頽云々」の書幅	1幅	紙本墨書	安政5・6年頃カ	個人
20	橋本左内書翰村田氏寿宛(いわゆる「日露同盟論」の書翰)	1巻(通)		安政4年11月28日付	春文
21	橋本左内常用肩衣残片	額装1面		安政5年頃着用	春文
22	橋本左内が母梅尾に贈った「 ^{じゃこう} 麝香」	1包			春文
23	橋本左内書翰母梅尾宛	1巻(通)	紙本墨書	安政6年(1859)9月28日付	個人
24	橋本景岳・頼 鴨厓(三樹三郎)賦七絶の幅	1幅	紙本墨書	幕末	春文
25	徳川慶喜筆「鬼神泣壯烈」の書幅	1幅	絹本墨書	明治時代	個人
26	橋本綱常書翰中根雪江宛	1巻(通)		明治10年8月31日付	春文
27	橋本箕山(綱常)賦「橋本景岳墓」ほかの詩稿	1枚	紙本墨書	明治時代	当館
28	松平春嶽校閲本『 ^{れいせん} 藜園遺草』稿本	2冊	冊子本	明治2年11月校閲	春文
◎29	橋本箕山(綱常)ほか書翰・詩稿貼交屏風	2曲半双	紙本墨書	明治時代	当館(小島龍美氏寄贈)
三. 医師としての橋本綱常					
30	橋本綱常肖像写真	2葉	キャビネ版	明治時代	当館
31	橋本綱常所用人体頭骨	1体	標本	明治時代	当館
32	橋本綱常「安心是薬更無方」の書幅		紙本墨書	明治時代	当館
33	橋本梅尾断髪許可書		紙本墨書	明治7年6月9日	当館
◎34	岡田 直宛準備医員証書	1枚	紙本墨書	明治28年5月16日付	当館
35	「医学博士 橋本君碑」碑文及肖像	1幅	紙本印刷	明治44年2月建碑	当館

※=資料保護のため、展示期間を限定します。 ◎=新資料・初公開 ○=当館又は県内初公開

◆ 次回の展示 ◆

松平春嶽生誕180年記念特別陳列
松平春嶽をめぐる人々

9月11日(木)～11月9日(日)

※関連講座を予定しています。詳しくはお問い合わせください。

◆ 展示の見どころ ◆

展示のみどころを解説します。

- 日時 7月26日(土) 14:00～
- 担当 角鹿尚計(当館学芸員)
- 定員 60名

※当日受付。先着順。聴講は無料。

松平家史料展示室 展示解説シート No.34
平成20年7月9日発行

福井市立郷土歴史博物館

〒910-0004 福井市宝永3丁目12-1
電話(0776)21-0489 FAX(0776)21-1489
担当 角鹿尚計

印刷 福井タイプ印刷株式会社
電話(0776)23-5196 FAX(0776)23-5149